4. その他(広報啓発)

参考資料:他大学・地域との交流等

### ◇ 平成 17 年度現代 GP シンポジウム (平成 18 年 2 月 21 日)

平成18年2月21日(火),札幌医科大学記念ホールにて、知的財産教育シンポジウム「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育の確立を目指して」を開催しました。

基調講演の講師は、元京都大学総長であり、長年医学研究に携わってこられ、また総合科学技術会議議員としても活躍された、財団法人先端医療振興財団理事長、井村裕夫先生でした。

井村先生からは、医療関連特許の専門調査会の経験などを踏まえ、医学研究をめぐる知的財産の状況について、講演があり、研究に携わる者にとって、「研究と知的財産とのかかわり」という視点から、自分たちの取り組みを見直すきっかけとなるものでした。

また,事例紹介として,京都大学大学院研究科において知的財産経営学コースに取り組まれておられる田中秀穂准教授にもお越しいただき,バイオ,医学領域における技術シーズの発掘や管理、活用を担う人材育成の取り組みについて、お話がありました。

田中先生からは、技術移転のプロセスや、特に医学分野において、知財の管理、活用に当たる 人材の育成のニーズが高まっていることの講演があり、医学研究に係る知財活用状況の認識を新 たにするものでした。

最後に本学石埜正穂知的財産管理室長から、本学が取り組む知的財産教育プログラムについて の紹介がありました。

シンポジウムには、本学教職員や技術移転関係者等約110名の出席があり、講演を熱心に聞き入っていたほか、大学による知財管理や知財教育を行う意義に関する質問が寄せられました。

### ◇ 平成 17 年度現代 GP フォーラム (平成 18 年 3 月 4 日)

平成18年3月4日(土)に東京ビッグサイトにおいて、平成17年度「現代GPフォーラム」が開催され本学からも参加発表しました。

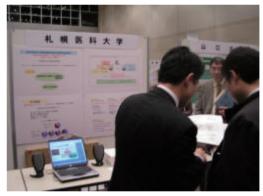
### ・ グループディスカッション

札幌医科大学知的財産管理室長石埜正穂先生(同医学部衛生学准教授)がパネラーとして参加し、「医学研究者、地域医療従事者支援型知財教育」について発表を行いました。また、同様にパネラーとして三重大学 松岡守教授から「全学的な知的財産創出プログラムの展開」のテーマで発表を行いました。引き続き行われました意見交換・質疑応答の時間では、土肥一史先生(一橋大学大学院教授)、森山明子先生(武蔵野美術大学教授)から、今後予定されている知財遠隔教育(e-Learning教育)等についての討論が行われました。

### ・ ポスターセッション

平成18年4月から予定されております、医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育に関するポスター4点と平成18年2月23日に実施された、シンポジウムの動画展示を行いました。 本学の取組みについて紹介するために持参した資料を追加コピーするほど、多くの質問と関心を寄せられ、非常に有意義な発表となりました。





参考資料:他大学・地域との交流等

### ◇ 平成 18 年度現代 GP シンポジウム (平成 18 年 6 月 26 日)

平成18年6月26日(月), 札幌医科大学記念ホールにて, 現代GPシンポジウム「医療・医学研究, 技術移転と知財教育のあり方を考える」を開催しました。

基調講演は「大学と知的財産-知的財産立国への貢献-」の内容で、守屋敏道氏(特許庁特許技監)からお話がありました。 講演は、日本が知的財産立国を実現する上での大学の重要性と、各大学における知的財産活動についての紹介の後、医療関連発明については、医薬品や医療機器等の医療関連発明に関して、特許の対象範囲や研究上の留意点等について具体的な例を交えてお話がありました。

パネルディスカッションは、司会は濱田洋文教授 (附属産学・地域連携センター所長) が務め、特別講演として宮田満氏 (日経 BP 社バイオセンター長) から、バイオの技術革新の流れと、日本が抱える臨床試験 (トランスレーショナルリサーチ) における問題点 (アメリカとの比較)、今後バイオ・医療特許の重要性が増していくこと等についてお話がありました。

パネルディスカッションでは、4名の方にパネリストとして、参加して頂きました。

橋本一憲氏(東京医科歯科大学知的財産本部特任助教授)から、大学における知的財産への取組、杉本直樹氏(㈱リクルート)からは大学に所属する特許の技術移転ビジネスについて、扇谷悟氏(産総研ゲノムファクトリー研究部門副研究部門長)からは独立行政法人化後の特許への取組、また石埜正穂助教授(本学附属産学・地域連携センター副所長)からは、札幌医科大学における知財の取組みと昨年度より開始された「医学研究者、地域医療従事者支援型知財教育」(現代GP)についての報告が行われました。

最後に宮田氏からは、医科系大学としてのコンパクトさを生かし、強みを発揮して欲しいこと、 守屋技監からは、高いレベルの研究成果について権利化、実用化を図って欲しいことなど、お二 人から札幌医科大学に対する期待を寄せて頂き、盛会のうちに終了いたしました。

これらの議論を通じて、医科系大学における知的財産創出や実用化推進に対する意識が高まる とともに、それを支える研究者を育成するに当たり知財教育の重要性について、認識を深めるこ とができました。

こうしたことから、本学の知財教育については、知的財産の権利化や実用化を意識した研究推 進の重要性を認識してもらうことを重点のひとつとして捉え、民間企業や技術移転機関の関係者 などによる実践的な取組の紹介などを、検討していくこととしています。

当日は、学外からも、大学関係者 5 名程度、行政関係者 15 名程度、民間企業や財団法人関係者 15 名程度の参加があり、本学関係者を含めると 100 名以上の出席者が、3 時間にも及ぶ長時間のシンポジウムに、熱心に聞き入っていました。

### ◇ 現代 GP 知財教育特別セミナー(平成 19 年 5 月 17 日)

開催日: 平成19年5月17日

場 所:札幌医科大学基礎医学研究棟5階会議室

テーマ:知的財産国際化人材育成セミナー

内容 (プログラム):

○開催挨拶 北海道大学知的財産本部運用部長 内海潤 教授

○講演

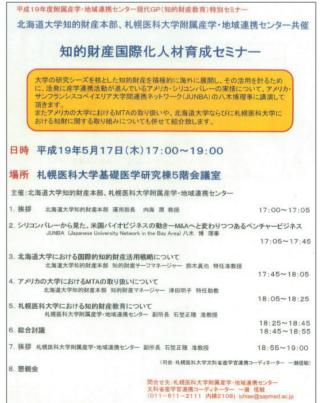
1. シリコンバレーから見た,米国バイオビジネスの動き-M&A - へと変わりつつあるベンチャービジネス

JUNBA (Japanese University Network in the Bay Area) 八木博 理事

- 2. 北海道大学における国際的知的財産活用戦略について 北海道大学知的財産本部 知的財産チーフマネージャー 鈴木真也 特任准教授
- 3. ライフサイエンス分野における MTA の諸問題について 北海道大学知的財産本部 知的財産マネージャー 津田明子 特任助教
- 4. 戦略的活用に耐える研究成果の知的財産化について 札幌医科大学附属産学・地域連携センター 副所長 石埜正穂 准教授
- ○総合討議
- ○閉会挨拶 札幌医科大学附属産学・地域連携センター 副所長 石埜正穂 准教授

本セミナーは北大の知的財産本部と附属産学・地域連携センターの共催という初めての試みでした。

JUNBAの八木理事からはシリコンバレーにおける米国バイオビジネスの動きと、現地における日本の大学の産学官連携活動について、現場からのホットな内容の報告がありました。また、北大の知的財産の国際活用戦略と、米国の大学のMTAの取扱いについて、北大の知財本部から、知財の戦略的活用について、本センターから報告しました。会場からは活発に質疑応答がなされ、充実した内容のセミナーとなりました。本センターは北大の知財本部との連携にも力を入れています。



参考資料:他大学・地域との交流等

### ◇ 現代 GP 知財教育シンポジウム (平成 20 年 3 月 6 日)

開催日:平成20年3月6日

場 所:札幌医科大学記念ホール

テーマ: 医学系知財を活用した地域貢献活動とは

内容 (プログラム):

○ 開催挨拶 今井浩三 札幌医科大学 学長

○ 基調講演 「イノベーション創出に向けた地域活性化と大学改革の戦略的視点」 佐野太 山梨大学 副学長 学長特別補佐(前文科省研究環境・産業連携課長)

○ パネルディスカッション 「医学系知財で、いきいきした地域づくり」 パネリスト(事例紹介)

・杉原伸宏 信州大学産学官連携推進本部・医学部知的財産活用センター 講師「信州大学における医学系知財を活用した地域貢献活動」

・松井純 文部科学省産学官連携コーディネーター (三重大学配置)

「いきいきした地域づくり」

· 辻泰弘 北海道経済部商工局産業振興課長

「医学系大学への期待~力強い産業構造の構築を目指して」

・石埜正穂 札幌医科大学附属産学・地域連携センター副所長

「札幌医科大学の地域貢献活動について」

- ・(コメンテーター) 佐野太 山梨大学 副学長 学長特別補佐
- ・(司会) 濱田洋文 札幌医科大学附属産学・地域連携センター 所長



本シンポジウムでは医学系知財を活用した地域貢献活動について、各地の先進事例の紹介を織り交ぜながら、本学の知財の活用の今後のあり方について議論しました。

基調講演では、文部科学省の産学官連携政策を担当されていた佐野太教授から、知財を核とした産学官連携活動の重要性について、具体的事例を踏まえて述べられました。また、地域活性化に大学がどう貢献するのか、政策担当者としての経験を踏まえた提言がありました。また、パネルディスカッションに先立つ事例紹介では、信州大学の杉原講師からは医学領域と地元産業界との産学官連携を効

# 参考資料:他大学・地域との交流等

果的に推進する「ライフサイエンス研究会」や、地域住民への健康講座についての報告がありました。 三重大学の松井コーディネーターからは、生産業やサービス業(主として観光業)に恵まれた地域特 性を活かした三重大学の産学官連携活動、医学部の研究者や研究シーズを活用する仕組みづくりにつ いての活動報告がありました。北海道の経済行政を担当する辻産業振興課長からは道の各種施策の紹 介と、行政の立場からの札幌医大への期待が述べられました。本センターの石埜副所長からは道内の 他大学との連携など、本学の地域貢献活動について報告がありました。パネルディスカッションでは 大学の知財の活用について、医学系知財ならではの課題について議論が交わされ、医大の地域貢献活 動の今後の在り方について示唆に富む内容となりました。なお、本シンポジウムの詳細については、 報告書を発行しておりますので、内容の詳細は本センターまでお問い合わせください。

### ◇ 医工農連携セミナー (平成20年11月7日)

平成20年11月7日(金) 帯広畜産大学原虫病研究センターPKホールで行われました,「医工農連携セミナー」で,石 埜正穂副所長と本学医学部分子医学研究部門の加藤和則准教 授が発表を行いました。

札幌医大, 北見工大, 帯広畜産大の研究者が一同に会し, 「癌研究」をテーマにセミナーを実施しました。



帯広畜産大の嶋田教授からは「伴侶動物におけるガン治療の現状とこれから」というタイトルでイヌやネコといったペット(伴侶)動物のガン治療の現状について、獣医臨床の現場からの報告が、また、北見工大の山岸教授からは「伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発」というタイトルで、伝統食品に見られる抗ガン作用などの研究と産学連携による商品化についての報告がありました。

本学の分子医学研究部門の加藤准教授は「がん免疫を土台とした学学融合および産学連携研究」というタイトルで、分子医学研究部門の高性能癌標的抗体の研究内容から、産学連携の展望について報告がありました。癌研究について、獣医学、農学、工学、医学と様々な視点からの報告があり、大変興味深い内容となりました。また、本セミナーでは知財教育の一環として、センター副所長の石埜准教授から「ライフサイエンス系の特許についてー札幌医科大学の事例に触れながらー」というタイトルで理系の研究者に必要な知財の基礎知識について、具体的事例を挙げながら説明頂きました。







本セミナーの主たる参加者は帯広畜産大の学生、教職員であったことから、ライフサイエンス系の 知財の取り扱いについて、3大学の有意義な情報交換の場となりました。

### 【本セミナーについて】

2006年に帯広畜産大と本学は「学術交流セミナー」を帯広で実施し、免疫をテーマに両大学の先生方に講演いただきました。また、帯広畜産大と北見工大は毎年農工連携セミナーを実施しており、今回は帯広の呼びかけで3大学共同での初の試みが実現しました。癌を切り口にそれぞれの大学が独自の視点から研究を進めていることがよくわかるセミナーとなりました。今後もこうした取り組みを進め、異分野連携の実を挙げるようサポートしていきたいと考えております。

◆ 日時: 11月7日(金)14:00~17:00

◆ 場所: 帯広畜産大学原虫病研究センターPK ホール

参考資料:他大学・地域との交流等

### ◆ プログラム:

 1
 伴侶動物におけるガン治療の現状とこれから

 帯広畜産大学 臨床獣医学研究部門 教授 嶋田照雅 先生

 2
 がん免疫を土台とした学学融合および産学連携研究

 札幌医科大学医学部分子医学研究部門 准教授 加藤和則 先生

 3
 伝統医学とバイオメディカル技術による生活改善食品の開発

 北見工業大学 国際交流センター長 教授 山岸 喬 先生

 4
 ライフサイエンス系の特許についてー札幌医科大学の事例に触れながらー

 札幌医科大学附属産学・地域連携センター 副所長 石埜正穂 先生

◆ 主催:帯広畜産大学地域共同研究センター 北見工業大学地域共同研究センター 札幌医科大学附属産学・地域連携センター

### (1) 新聞記事



(札幌市

幌

医療分野などで企業との連携を促す。 特許の取得を促し、多額の開発資金を要する先端 行う。学会での発表を優先しがちな医学研究生に す。ベンチャー企業の経営者らを講師に招いた専 度から、医学研究生向けの知的財産教育に乗り出 礎知識を教えるほか、医療関連特許の事例研究を 門講座を開設。知的財産にかかわる法制度など基 札幌医科大学(札幌市、今井浩三学長)は来年

医学系大学の知的財産教 の教育課程に盛り込む。 あるが、年間を通した讃 期間の講座を設けた例は (東京・文京) などが短 『は、東京医科歯科大学 知的財産の講座は年間 (文部科学省) とい

ヘンチャー企業の経営者

知財法や医療関連事例

### す 業 端医療 車

内の研究成果の実用化に らに依頼する。 どとの連携強化を支援。 許の取得を促し、機械メ |来は、医大発ベンチャ カーや大手製薬会社な 企業の創出などで大学 札幌医大は研究者に特

受講対象は一般の学部

か、国ごとに異なる法制 願した場合の実用化の違 で発表した場合と特許出 向けは、研究成果を学会 いなど基礎的な知識のほ を講義する。 ただ先端医療機器の開発 財産管理室)といわれる。

知的財産部門の担当者や 書された時の訴訟方法を **坐には弁理士などを招** 敬える。 講師は、 基礎講 を通じ、特許の出願や侵 **源関連の特許の事例研究** O、応用講座では企業の 一方、大学院生には医

いる。 心に特許の取得を進めて や北海道工業大学(札幌 活用するため北海道大学 みられる。 市)などが、理工系を中 企業との連携は不可欠と 道内では、民間資金を

や医薬品などに使う物質 の培養などに多額の資金 がかかり、資金力のある

(日本経済新聞 平成17年9月15日)

多く、理工系大学に比べ 弾みをつけたい考えだ。 果を学会で発表する例が 特許取得などへの関心 医学分野では、研究成

は低い」(札幌医大知的

157

呼びかける。 化で企業への技術移転 低限の知識を身に付 い」と積極的な受講を 医学研究成果の特許 意識を高めてほし



石埜 正穗氏

を新年度スタート。「最 知的財産に関する教育

札医大でスタートする 知的財産教育担当教員

で対応。医学部三、

を促進し、 を集めている。 法・医薬品開発等につ みだけに、全国の注目 系大では珍しい取り組 なげるのが狙い。 必修・選択コースを 新しい治療 医科

まれる。埋もれたまま 画。「発明は現場から生 を活用した講義も計 域医療従事者ヘネット 十九年度からは、

設け、基礎から応用ま

陣には学内教員のほ 年生も対象とし、 か、弁護士、弁理士ら

育ニーズ取組支援プロ グラムに札医大が選ば

同大院生を中心に

文部科学省現代的教

をそろえる。

開業·勤務 医^ 講義 ツ

する。 から。 研究、科研費各部署を 域連携センターを立ち による関心拡大を期待 許や実用新案を取得し は一割。少数ながら特 興味を示し研究開発中 行ったところ、四割が するアンケート調査を 務医に、知的財産に関 では、 る研究強化を目指す。 た例もあり、本格教育 本化。企業連携によ 同大衛生学講座助教 新年度からは産学地 同大卒の開業医や勤 弁理士。 知的財産管理室室 知的財産、共同 医学の損失」だ

> (北海道医療新聞 平成 18 年 3 月 10 日)

私は札医大衛生学講座
ル分野の研究成果が産業 (1) 医療従事者と知的財産

振興に果たす役割は、米困難といえる。 用化を図ることは非常に 中、特許の有効な活用な高まっている。こうした しに、新規医療技術の実

るとともに、学内に「産 するための規定を整備す 

正穂 副所長 学・地域連携センター」

.

取得して以来、大学の知

等に関する国家資格)を

に弁理士(特許出願代理

けているが、五年ほど前 学などの教育・研究を練 物学、生化学やウイルス 助教授の立場で、分子生

財教育を兼務している。 的財産(知財)

者

知財に関する仕事は当

地域連携センタ

高まり、学生や研究者に けではないが、少なくと ed.ac.p/chizai/indexgp 対する意識向上の機運が な回答を見出しているわ 知財教育を開始した。 トしている。 を本年度新設し、サポー 従事者にまで知財教育は 一方、学内でも知財に は存在し、私自身も明確 薬の新し 必要なのか」という疑問 「発明の種」 ホームページに紹介して 始めたばかりだが、本学 ラムは、まだ学内向けで い用途も対象

行っているわけである。

日々患者に接している

から特許対象だった米国

後者のような発明が昔

きる(特許の審査基準に

別配された)。

この試みは「医学研究 のか」についての知識が も「知財とはどういうも ろう。それは「税金の仕 必要なのは間違いないだ。究や発明と無縁ではな じる。そしてこれらの html). いる (http://web.sapm とと、科学的なひらめき い。「名医たることと科「科学」は当然発明と表 実際、医療の現場も研科学に取り組む姿勢と通 は同種であり、治療にお からこそ素早く気づくこ けるさまざまな工夫も、 考察する。 る例も存在するという。 で医師が製薬会社からラ イセンス料を取得してい では、抗がん剤使用方法 次回は、医療技術の競

が悩みの種になっている。

国の先行事例などを引き

そこで、本学でも研究

間もなくなりつつあるの

忙のため研究している時 変に嬉しいことだが、多 設けなければ対応が困難

になってきた。これは大

札医大産学

に増大、独立した部署を 学内外で業務量が飛躍的 済んでいたが、最近では 初事務局の業務範囲内で

出されるバイオメディカれ、世間の関心や期待が

が主体的に知財化し管理 教育」として、文部科学 で生まれる成果を、大学 者を対象とした知的財産

さて、大学等から生み 合いにして近年注目さ

内の研究者ばかりでな GP)」に採択された。学 組支援プログラム(現代 省「現代的教育ニーズ取 いった理屈に少し似てい 失敗を犯さないため」と 組みを知らないばかりに 余分な支出をしてしまう

るよう目指している。 く、全道で医療に従事しる。「余分な支出」の負担 知財教育にアクセスでき ているOB等まで気軽に が個人レベルならまだし もちろん「一般の医療 ってくる可能性もある。 も、国家レベルの話にな 知的財産教育のプログ る。つまり科学的判断を 常に分析・抽出してい な偏差なのか、実際の症 の「ぶれ」に対し統計的 は少なくとも患者データ 言葉だが、治療の現場で ている」は、ある教授の 候変化を反映するのか、 学者の素養は深く関係し 裏一体と考える。 そもそも医療従事者の

がん剤に使用するなど) つけやすい立場にいるの 剤の新しい価値を一番見 は医師だろう。薬の新し 身近に発明の種が豊富に い用途(血圧降下剤を抗 存在している。例えば夢 のであれば特許を取得で についても、画期的なも 併用など)に関する工夫 い使用方法 (用法、用量 だった。最近は薬の新し の発明は既に特許の対象

(北海道医療新聞 平成 18 年 6 月 9 日) 培養条件などを精査する 適した菌株をスクリーニ

したがって相応の開発 科学研究開発局医学研究

戦がはじまると、米国の るに至った。 ところが第二次世界大 にペニシリンを実用化す ングしたり、菌の増殖や

か進まなかった。

民間活力を導入し、つい

らだ。

# (2)医療技術の普及推進

出してきた。CMRは、

ダー・フレミングが発見 とが出来る革命的な医薬 した。多くの人を救うこ ベニシリンは、一九二 コストがどうしても必要 技術などの特許を積極的

めにはペニシリン産生に する必要があり、そのた シリンを大量安定に製造 る。まず、高品質のペニ レベルとは話が違ってく なると、実験室の試験管 者の治療に実際に使うと 考え、特許を取得しなか 由に活用してもらおうと は、世のために成果を自 を察知したフレミング 品開発につながる可能性 しかし、たくさんの患 事者

ったと言われる。

札医大産学・地域連携センタ

石埜 正穂 副所長

八年、英国のアレクサン なため、実用化はなかな に取得・活用する巧みな 用がいかに重要かという かないだろう。 技術などの特許を積極的 保障、すなわち特許の活 そのような競争原理も働 それを生かせない。加え するとなると、エピデン適切な特許管理下に培養 な利益を確保するための ない大多数のケースでは っかく特許を取得しても をめまい疾患に広く処方 委員会(CMR)が乗り 主体を動かすために十分 大きな市場性を期待でき 合わないケースでは、せ リンの画期性と汎用性に あったが、これはベニシ 術や治療に使用する器具 は、十年以上前メニエー 済に依存する以上、開発 いし、そもそもそこまで にかかる費用など)に見 示唆する。 ことを示している。 産の開発を進める場面も を受ける機会がある。手 (しちのへ内科医院院長) えてくる。 業が競ってペニシリン生 その後、たくさんの企 に応じていると、道内各 取得コスト多大な例も 実用化後、利益見合わず 地の医師等から発明相談 大学で知的財産の相談 たくても手遅れの例もあ どうしても生じ、それに て、そもそも特許を取り スを広く蓄積する必要が ತ್ಯ 札幌市の七戸満雄医師 大・保険収載への道も見 よってこそ初めて適応拡 しかし、アシクロビル

この話は、資本主義経 りで企業は自滅しかねな や維持経費、開発と治験、染に起因していたことを となり企業との連携が不 っても耳鼻科で普通に使 できる見込みがあったか むことも多い。 在化したため、販売主導・だが、知的財産権(特許、めまい患者が、アシクロ があり、それには多大な にはかなりの困難が伴う。よる莫大な市場規模が顕 方法など対象はさまざま けながら症状改善しない 得てデータ収集する必要 等を行うとしても現実的 権を奪えば生産技術に対 する開発コストをカバー しかし、これでは安売 コスト (知的財産の取得 の理由によりヘルペス感 の可否・適否について悩 とを見出した。 実用新案、意匠)の取得 ビルで治癒・軽快するこ 労力やコストを要する。 の改良、特定疾患の診断 ル症等の診断で治療を受 め関係者の幅広い協力を なるが、医師主導型治験 実用化後の販売利益が 少なくとも一部が何らか これは、めまい患者の だけの収益見込みが必要 験その他の投資に見合う なろうが、その場合、治 通常、目標は薬事申請と 解禁された場合、アシク そのため、大学をはじ 受けるにも治験が必要に 療に用いられる可能性も ロビルが自由にめまい治 ある。しかし、そうであ 一方、仮に混合診療が

する

の基礎知識について解説 をぜひ検討してほしい。 る。同時に特許の可能性 とが何よりも大切であ きちんと整理しておくこ 範囲で客観的なデータを に繋げるために、可能な

次回から、知的財産権

残念だ。 状においては適応拡大を ばもっとスムーズな普及 思われるが、特許があれ いる。発見当時は医師が 取得しなかったと聞いて の可能性について特許を には相応のコストと労力 言わざるを得ない。 協力を得ることは困難と 門書や治療指針に記載で の担保なしに企業からの も可能だったかも知れず な雰囲気ではなかったと 可欠となる。だが、特許 世間的に容認されるよう 特許を取るということが なお、改正薬事法の現 七戸医師は、この治療 が必要になり、そのため 少なくとも次のステップ なかむずかしい。だが、 ケースパイケースでなか すればこれを普及させら ತ್ತ を見出したとして、どう 普及に向け奮闘中であ 療法(薬の新規用途等) 在も七戸医師は本療法の 負担は避けられない。 きる客観的データの薔積 用されるようになるため れるのだろうか。これは には、やはり信頼ある専 それでは、 何か新しい 平成 18 年 6 月 23 日)

(北海道医療新聞

# 知的財産制度

(3)

絵を描いたとしよう。も

侵害される。 て出版物等を販売できて る。なお実用新案のター

るが、知的財産制度の概 なく、「模倣(盗作・複 今回は少し専門的にな に「盗難」されるのでは ちろん、その原画自体は 物的な財産であり、盗難 意思が損なわれる。

札医大産学・地域連携センタ 石埜 正穂 副所長

発明保護、利用が目的

普及促しさらなる創作

にならない」という思想

に根ざしている。

創作努力が軽視され創

では、決して良い世の中

「模倣が許容されるよう

めのものである。それは

して認め、これを守るた した成果対象を、財産と の末に個性を発揮し創造

知的財産制度は、苦労

したり、物的財産のよう が流出することによって でその絵を模倣・複写し 工夫は意匠法で守られ なぜならば、知的財産 ることや、インターネッ 製)」されるのだ。つまり ト等の媒体を介し複製品 知的財産権は真似をされ がなければ、誰でも無断 等に対し通常の財産権を し知的財産に対する権利

なる。

は建物のように「占有」

ので、少し厄介なことに

わば「情報」そのものな べき対象の知的財産がい 的財産の権利を保護しよ る心配がある。そこで知 作者が報われないと「文

うというのだが、保護す

化」や「産業」が衰退す

主張できる。しかし、も 許法や実用新案法で、モ たい場合は、必要書類を だけの状態ではとりあえ ノ(医療・福祉用の装置 そろえ特許庁へ出願する ず 「唾をつけた」 に過ぎ や器具も含む)の形状の ಶ್ಠ 法律により保護されてい 質に対応したさまざまな 以外では、対象の保護を 知的財産は、対象の性 受けるために公的な登録 が存在する。 るので、欠陥のない内容 理費用、特許の登録料、

か、技術の「発明」は特(意匠権・商標権を取得し(程度。また「出願」した(るよう詳細を記載する必権利を守る著作権法のほ(ち、特許権・実用新案権・は、通常三十―五十万円(したり、発明を実施でき る。音楽や絵画、著作の を必要とする。 すなわ するまでに必要な費用 したい範囲を自分で特定 ことになる。 これらのうち著作権法に整える必要がある。 このときの書類は専門 初めて登録となるのだ m」)、発明の詳細を記載 ず、特許庁の審査を経て な書類を作成し「出願」 特許の場合、このよう 求の範囲」(英語で「clai 特定する文書を「特許請 ること」である。 つまり 要がある。権利化範囲を つて産業の発達に寄与す 必要な書類には、権利化 成功報酬など。

より、発明を奨励し、も 護及び利用を図ることに

వ్త

中を良くしようというの

産業の発達を通して世の

について、具体的に解説 特許権を取得できる対象

例えば、誰かが優れた しまい、著作者の努力や ゲットは特許よりも簡易 事務所 (弁理士) に代行 やり取りの代理や特許庁 制度は、そのような安易 はなくモノに限定され するのと同じ意味を持 円必要となる。具体的に たり論文で公開されてい 評価されるようにしてい ル、など)を守る商標法 際の重要な「根拠」とな 意見書等提出手続きの代者の個性の発揮が正当に ド」(夕張メロン、シャネ り、権利侵害者を訴える 許庁の審査結果に対する によって、世の中で創作 スに対し築いた「ブラン 登録を受けて権利書とな 請求」する時の費用、特 述)。また、他の人が特許 な侵害行為を禁じること る。他にも商品やサービ つ。つまり、出願書類は 著作権法等の知的財産 で、保護の対象は方法で 判で弁護士に代理を依頼 と、さらに三十一五十万 な発明(「考案」と呼ぶ)してもらう。これは、裁 に支払う費用を合わせる 的なもので、通常は特許 が、登録までの専門的な は、特許庁に対し「審査 一ない部分となる(次回詳 囲は、既に実施されてい いう。 明細書を見て実施できる

特許を取得するために 特許法の目的は、法の冒 ているように「発明の保 頭(第一条)に明記され 許制度の存在理由にかか わる重要なポイントだ。 条件とされる理由は、特 与えられるから。 とを条件として特許権が 「公開」が特許取得の らスタートする。追従や のではなく、要はバラン 模倣がすべて悪というも 技術を模倣するところか 技術の改良であり、既存 動の基本はそもそも既存 ながらないからだ。 人間のあらゆる創作活

スの問題というわけであ 次回は「発明」として (北海道医療新聞

する文書を「明細書」と であり、よく誤解される 自分の権利にできる範 こと自体が特許の目的な のではない。

に、特許法の最終目的を ように発明者を保護する 「発明の保護」ととも

ように記載されていない 内容を皆に分かるように られない。これは、権利 きちんと「公開」するこ 発明は、特許として認め る改良技術の創作にもつ つながらないし、さらな なければ世の中の発展に 用」も図る理由は、発明 用」がうたわれている。 達成するため「発明の利 を秘匿せず広く普及させ 「保護」ばかりでなく「利 平成18年6月30日)

# (4) 特許取得できる発明

発明を完成させている。 い、子宮腔癒着予防具の

が生まれたわけだ。

また、留萌市立病院の

明とはどのようなものだ

ろうか。まず「発見」と 発明」の違いについて さて、特許を取れる発 妊リングを積極的に子宮 は、東口医師にとって自 データの注意深い観察に らかなように、病気を治

腔癒着予防に使用する可 然な流れであったと思わ よって、糖代謝異常を有 したい、できるだけ早期 発見から発明への転換 笹川裕医師(副院長)は、

新規・進歩・有用が条件

学者の研究成果は「発

札医大産学 ・地域連携センタ

学会発表後は取得不可も

える。例えば、KKR札

の東口篤司医師(生殖内

隔の子宮鏡下手術におい 分泌科科長) は、子宮中 **幌医療センター斗南病院** 発見と発明は紙一重とい

避妊リングを装着す

石埜

正穂 副所長

明」ではないので、特許

という)が、発見は「発 多い(英語でも finding 見」の範疇に入るものが 考えなくてはならない。

にはならない。

しかし、実際のところ

基にした「発見」だが、避 最適なリングの工夫を行 子宮腔癒着予防具の発明 シンドロームの有無を判 これ自体は医療経験を は、さらに子宮腔癒着に の発見があったからこそ スクの高いメタボリック 能性を考えた東口医師 れるが、癒着症抑制効果 ることにより子宮腔癒薬

症が抑制されることを発

後糖代謝異常や心血管リ 康診断レベルの検査(空 ケースは多い。 腹時血糖値と空腹時血中 し、OGTTのような煩雑 インスリン値) のみで食 笹川医師はこれを応用 といえる。日々の診療の べき点は、例え自分が発 易」に思いつく程度の工 経験や観察に根ざしたひ 明した技術でも、学会発 夫に過ぎない場合は特許 発明が生まれやすい環境 当然の条件。気をつける 療の分野の同業者が「容

な試験を行わずに一般健 らめきが発明の芽となる 表や論文等で公表してし 権を与えない、というも 特許として認められるた る。公表した以上、万人 いちいち権利を与えてい 件」を満たさなくてはなになってしまう。 めには、いくつかの「要 の技術として認めたこと たら、世の中は特許で足 ところで、その発明が 得できなくなることであ まうと、もはや権利を取 のである。 の踏み場もなくなる。そ のハードルをクリアしに 思いつき程度の内容に

らない。特許は強力な独

権利化が必要であれ うすると、製品を作った

くい。「予測」が可能な以の「有用性」を説明する

が、この場合は「進歩性」 あるとの予測から、それ い。例を挙げると、A剤

キーワードといえる。

次回はもう一つの条件

を実証することだ。だ

実証できた時、特許の可

なる。

断できる方法を発明し 以上のような例でも明にはいかない。

リン抵抗指数とβ細胞機「ニーズ」がそのまま新 「新規性」は、既に存在 はない。 する患者におけるインス に診断したい、といった 有用性の三つだ。 能指数との間には一定の しい発見に直結するの なのは、新規性、進歩性、

関係が存在することを発 で、医療の現場はまさに 与えないという、いわば れは医療技術であれば医 している技術には特許を

要件のうちで最も重要 式に出願してしまえば、 特許性が損なわれること

その後いくら公表しても ない。 べきであり、逆に一度正

次に「進歩性」だが、こ る対象は、普段から行わ れているような最適条件 る。「容易」かどうかの判 集めのようなものとな の選択とか、単なる寄せ いて、「容易」とみなされ

それらとの比較の問題に えて実証した場合、それ べての技術であり、要は 断基準は、出願の時点で 世の中に知られているす ある予測の下に研究し とともにB剤を用いるこ 見られた場合など)。 よる予想外の相乗効果が りに評価される(併剤に が得られた場合はそれな あれば、当然結果も個性 も評価対象となる(A剤 測をはるかに超えた結果 的(進歩的)であり、 されていた課題を乗り越 剤とB剤を併用するとい あるいは、解決困難と 平成 18 年 7

能性を考えることが多 いが、用法工夫によりそ とB剤の併用が効果的で ど)。このような「意外 性」や「困難性」は、進 れを乗り越えた場合な 歩性をクリアするための とが常識的にはあり得な (北海道医療新聞

占排他権だけに簡単に権 ば、特許庁への出頭手続 り売ったりする者にとっ 利を付与するというわけ きが終わってから公表す ては、知らずに特許侵害

り、おちおち商売もできしている危険性が高ま 上、結果は当然のことと 他ならない。

「進歩性」の判断にお うアイデア)が個性的で みなされてしまうからに しかし、予測自体(A

# 特許の条件である「有 予防効果を証明できない (5) 「有用性」と大学の役割

法や抽出法が示されてい

一方、「作り方」は、医

要があろう。タンバク させない、という理由か

家に相談したほうが良 要になるので、特許を上

度利用、企業とのパイ

については、

る」ことと「作れる」こ がある。すなわち、「使え y)」は、二つの意味合い 用性 (usefulness, utilit 状態)では、「使い方」を ることが必要とされる。

で予防するというアイデ 状態では、有用性を満た に何の用途も示せない) ならない(つまり具体的 見しても、毒にも薬にも ば、基礎研究で新しいタ がある) が明白な場合が ば「使える」(つまり用途 ンパク質や化学物質を発 (例・がんをピタミンX いくらすばらしい発想 医療関係の発明であれ 例え

ほとんど。しかし、

すことができない。

ア)でも、実態のない「夢

物語」(アイデアの段階、

具体的に示したことには

つまりピタミンXのがん

ならず、特許権を取得で 物についても言及する必

札医大産学・地域連携センター

石埜

正穂 副所長

リカのように医師の医療 ることも重要だが、現在 なろう。実際に多くの医 くる。

の対象になる。

の条件を満たす限り特許

薬であれば、具体的な製 器具、化学物質(医薬)な 術、治療、診断する方法) 明した新規性、進歩性等 とされている。 ど、大抵のものは前回説 に関しては特許の対象外 や、海外で役に立ちそう 質、遺伝子、細胞、動物、ら、医療方法(人間を手 影響力の大きい発明 しても必要になる。

く、ソフトウエアや方法 を起こせない代わりに医 各国で独立して取得しな 出身大学等の支援を受け この機能を十分に発揮でまた、物質ばかりでな 行為に対し特許侵害訴訟 のところ特許は基本的に 師は、研究を行うために 過去において、大学が

しかし、海外ではアメ 以外の国で特許を取得す もらうのが一番の手段と の実現も現実性を帯びて が「新しい医療の実現 な発明については、日本 と契約して特許を使って ば、困難であった新医療 発明へのインセンティブ 手に活用することがどう ブ、大学のブランドカと に紹介したペニシリンの そのため、企業や大学 積極的に有効活用すれ いった大学が持つ機能を れると思うが、実際には 例を挙げれば理解を得ら

きていたかといえば、必 ずしもそうとは言えな 過去において、大学が っても、世の中に新しい 61 に区別される必要はな 技術をもたらす以上、 「金儲け」のどちらであ

会貢献を重要課題と認識 い。しかし、大学側も社 実現させることができれ 結果として社会貢献を

始めた。ぜひ大学を上手 かというテーマに挑戦を のりが多く、成功するケ かに有効に活用して行く されるまでには困難な道 に使っていただければと の意味では特許出願は社 学に集まった「知」をい センターを発足させ、大 四月から産学・地域連携 しつつあり、札医大でも ースはまれといえる。そ ても発明の対象が実用化 思う。ただ、いずれにし があるのは当然のことと ば、発明した本人に利益 会貢献的色彩が強いとも

# エビデンス収集、研究費取得

薬の使用方法 (用途、用 許を取得できる国もあ 費 (各国の特許審査や登 に、特許の出願や開発ににも特許が存在する。医 療方法について自由に特 くてはならないので、経 ながら行っている。同様 機能

だ。 からどこまでが医療方法 用や翻訳料など)と手間 重要になる。 量や用法)も特許の対象 る。また、具体的にどこ 録、維持費用、代理人費 おいても、大学の役割が 用法を見出せば、特許取 医薬でも、新しい用途や つまり、既に存在する なのかという問題につい がかかってしまう。 てはケースパイケースで これまでに解説した開 ビデンスを集める必要 つまり、広く多くのエ 思う。

特許を取得できる対象 得できる可能性がある。 ただし、医療現場を混乱 あるため、出願書類の書発、治験などのプロセス性、医師主導型臨床治験と、金儲けのイメージが

ので、疑問があれば専門 き方次第でかなり変わる も含め、実用化までには の実施、研究費取得をは どうしても付きまとう。 大きな労力とコストが必 じめとしたさまざまな制 これらネガティブな批判

最後に、特許という 言えるが、それは新しい キップと言えよう。 医療という夢の実現への

> (北海道医療新聞 平成 18 年 7 月 14 日)

# シンポジウム開催のお知らせ

# 医学研究者•地域医療従事者支援型 知財教育の確立を目指して

時 2006年2月21日火 15:00~ 場 所 札幌医科大学 記念ホール

札幌市中央区南1条西18丁目

道内各地で医学研究を進めていらっしゃる皆様から、 町的財産教育に関するニーズや希望、本学の取組みに対 

### 0 0 0 プログラム

■15:00~15:05 挨 拶 今井 浩三(札幌医科大学長)

■15:05~15:45 〈基調講演〉講師:井村 裕夫 氏 (財団法人先端医療振興財団 理事長)

### 「これからの医学研究と知的財産」

「バイオ・医学領域の技術経営、知的財産経営 ~京都大学における教育と研究の取組み~」

紹介者:田中 秀穂 氏(京都大学大学院医学研究科 助教授) ■16:15~16:30 札婦医科大学の知的財産教育の取組みの紹介

紹介者:石埜 正穂 氏(札幌医科大学知的財産管理室長-医学部 助教授)

### 讎演者の紹介 -

現在に至る。

①田中 秀穂 氏
(京都大学大学院医学研究科 知的財産経営学コース 助教授)
1983年 東京都立大学理学研究科を工業型生物学専攻 億ア
1985年 現京都立大学理学研究科を工業型と特学専攻 億ア
1986年88年 Harvard Medical School, Department of Physiology
1993年 博士(学師) 大馬大学
2003年 三聚化学師 湖東
東北学大学教医学研究科 助教授
現在に至る。

現在に至る。

②石整 正確 氏

《礼視医科大学知的財産管理室長・同医学部衛生学 助教授)
1994年 北海辺大学大学取扱境科学研究格技工課任 修了
1995年 市上版学科風報大学大学取扱境科学研究格技工課任 修了
1991年 礼服研入学大学の場所版が人研究所第千(1996年 講像)
2002年 沖曜土産税収算
2002年 沖曜土産税収算
2005年 株保護株大学な学部販査が人研究所第千(1996年 講像)
2005年 北保護株大学な学師教育が人研究所第千(1996年 講像)

札幌医科大学知的財産管理室

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 TEL011-611-2111(内 2108) FAX011-611-2237 e-mail chizai@sapmed.ac.jp



(北海道医療新聞 平成18年2月17日)

札医大(今井浩三学 | 床応用へ、知財専門家育 | と指摘。

長は、 た井村裕夫先端医療振興 同大で開き、基調講演し テーマのシンポジウムを 財団理事長は、産学連携 推進による基礎研究の臨 知的財産教育が

|臨床試験を海外先行・限 半数を占め、日本企業で 許申請数は海外企業が過 究状況について、新薬特 成が不可欠と説いた。 定で行っている例が四割 井村理事長は、臨床研

一展」とメリットを強調し |進める、『トランスレー 内推進により「特許で産 ショナルリサーチ』の国 業化を促進すれば国が発 能性を評価しつつ開発を 研究成果の臨床応用可

体と製造法、医療機器本 許保護対象は、医薬品本

け実施した。

意。日本で医学分野の特

「これからの医学研究と 知的財産」と題し講演し た井村理事長 だが、米国は手術・治療 品、血液サンプル検査法 体と作動法、生物由来製 鏡検査法まで加わり幅広 遺伝子診断・内視

知財管理部署を設ける大 特許に関する相談や出 産学連携窓口として

札医大シンポ

争に耐えられる体制整 り選定が必要」「特許紛

等をアドバイス。

学が増える中、

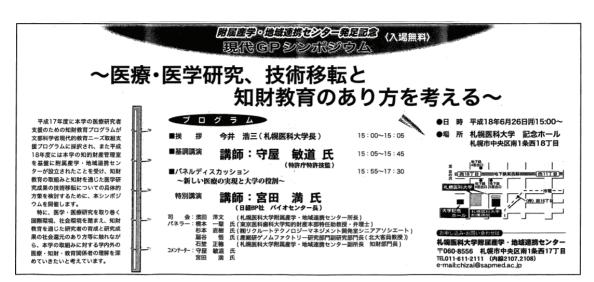
「すべて

の特許管理は費用がかか

と対象外となる点を注 め、事前に学会発表する 願を念頭に置くよう求 研究者には国際特許出 者支援型 学研究者·地域医療従事 の『創造』は研究者、 られる人材として、 い」と呼びかけた。 する関心を高めてほ 医療従事者へ「知財に対 育成とともに、すべての 知識を有した知財専門家 用』は医師と捉え、医学 保』は知財専門家、 同シンポジウムは また、医学発展に求め 知財教育の確 知識 。 電

事者への知財教育に先駆 トする院生や地域医療従 同大が新年度からスター 立を目指して」と題し、 医 活

(北海道医療新聞 平成 18 年 2 月 24 日)



(北海道医療新聞 平成 18 年 6 月 23 日)

時から、 が基調講演。 野太山梨大学長特別補佐 挑政策を担当していた佐 を活用した地域貢献活動 ンポジウム「医学系知財 とは」を三月六日午後四 札医大 (今井浩三学長) | ン「医学系知財で、 文部科学省で産学官連 十九年度知財GPシ ネルディスカッショ 大記念ホール は 大と、家庭医療や予防医 学を中心に地域貢献型研 黄献に活用している僧州 いきした地域づくり」で 医学部の知財を地域 いき 察弘道経済部商工局産業担当者が実例を報告。辻 大産学・地域連携センタ 振興課長、 究を進めている三重大の ―副所長も加わり議論す 石埜正徳札医

札医大

ている。 は札医大産学・地域連携 0 1 1 センター知的財産管理 を受け、十七年度から医 代的教育ニーズ取組支援札医大は文部科学省現 療従事者や研究者を対象 プログラム(現代GP) 知的財産教育を推進 611 2

(北海道医療新聞 平成20年2月15日)

### 札幌医科大学 附属産学・地域連携センター 平成19年度 知財GPシンポジウム

# 医学系知財を活用した地域貢献活動とは

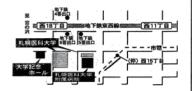
《入場無料》

本学では、平成17年度より文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラムの採択を受け、「医学研究者・地域医療従事省支援型知的財産教育」を展開しており取組3年目となります。

平成19年度知財シンポジウムでは、「医学系知 財を活用した地域貢献活動とは」と題し、知財教育 を通じた研究者の育成と、研究成果の社会還元の あり方等に触れながら理解を深めていきたいと考え ております

基調講演には、文部科学省の産学官連携政策を 担当されていた佐野 太氏に、産学官連携による地 域では、大田では、産学官の交流担総 「ライフサイエンス研究会」を主催し、医学部の 知的財産を活用した社会質献を推進している信州 大学、及び、みえメディカルバレエプロジェクト 地域に密着とた僻地医療、疾医医療、予防医学な どに関する地域質献型研究の盛んな三重大学の担 当者をお招きし、新たな取り組みや事例の紹介と ともに、特に、医学医療系の知的財産による地 社会への育蔵について継続していただきます。 ログラム 16:00~16:05 □挨 今井 浩三 (札幌医科大学 学長) 山製大学学長特別補佐 16:05~16:45 佐野 太 教授 (前 文部科学省研究環境・産業連携課長) □基調講演 16:05~16:45 □パネルディスカッション 16:45~17:50 司会 溶田洋文 札幌医科大学附属産学 地域連携センター所長 杉原伸宏 氏 信州大学産学官連携推進本部 医学部知的財産活用センター講師 松井 純 氏 三重大学産学官連携コーディネ 辻 泰弘 氏 北海道経済部商工局産業振興課長 石埜正砷 札姆医科大学附属産学 地域連携センター副所長 コメンテーター 佐野 太氏

□日 時 平成20年3月6日株16:00~ □場 所 札幌医科大学 記念ホール 札幌市中央区南1条西18丁目



### お申し込み・お問い合わせ

的財産の活用による社会

をテーマに講演し

一瀬信敏氏(三)。「知

学官連携コーディネータ

札幌医科大学附属産学・地域連携センター 知的財産管理室

知的財產管理室 〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 TEL (011)611-2111(内線 2107,2108) E-mail:chizai@sapmed.ac.jp

(北海道医療新聞 平成20年2月22日)

# す一瀬氏性化の切り札」と話「知的財産は地域活

# 知的財産が切り札

専門家の 地域活性化策を紹介

室蘭で研修会市職員ら対象



一瀬氏は「知的財産は一瀬氏は「知的財産は「知りを技術の宝箱」とし、党知財や技術の宝箱」とし、党地域活性化の切り札」と

の大|た。「知財の創出や保護、ラン|るマチづくりを紹介し」し、|学や企業、行政が連携す

| てほしい」と呼び掛けた。 | 活用は社会の発展の原動

(室蘭日報 夕刊 平成20年1月19日)

約百八十人が参加し る道内の取り組みなどを 学んだ。

(第3種郵便物認可)

# 札医大講師の石埜さん



格率6・9%の狭き門。

理士試験は二〇〇一年に ど知的財産権の管理体制

# 家試験に合格した。医学博士の弁理士合格は道内初で全国でも極めてまれ。弁理士の主た業務は特許の出願手続 札医大医学部衛生学講座の講師で医学博士の石埜正穂さん含じが、三十日発表された二〇〇二年度の弁理士国

合格で総数は十二人となと話す。 されているので、今回の はこれまでに九人が登録 によると、道内の弁理士 日本弁理士会(東京) を高める仕事をしたい 格した石埜さんは、 学の研究者の発明の価値 した。二度目の挑戦で合

翔を引き起とすウイルス<br />
業育成や大学での研究資

石禁さんは、子供の下

「大学発のベンチャー 同大の秋野豊明学長は

を含め三人だった。
が短いこともあって失敗なっており、石禁さんに 道内の合格者は石埜さんも受験したが、準備期間 難関の弁理士試験に合格した札医大の石埜 を整備するととが課題に してもらう子定」と話し は、その準備室長に就任

者は四百六十六人で、合 〇二年度の全国の合格 の遺伝子の研究で、一九 八八年に医学博士に。弁 取り組んでいる。特許な 源を核にした産学連携に

(北海道新聞 平成14年10月31日)

文部科学省メールマガジン

「大学改革 GP ナビーGood Practice - (第 12 号) 平成 17 年 12 月 2 日」より抜粋

### $\Diamond$ INDEX

- [平成 17 年度特色 GP フォーラム体験記(その 4)]
- 「レポート]
- (1) 大学設置・学校法人審議会答申にあたって (平成 18 年度開設予定大学等答申関連)

(2) GP 選定取組の実施状況レポート

(北海道大学・札幌医科大学)-

- [GP に関する Q&A]
- [編集後記─編集部(予算等全体調整担当)

大学改革推進室改革支援第1係 加藤 達矢]

~~~~~~~(抜粋)

### (札幌医科大学)

(高等教育局大学振興課大学入試室入試第2係 金盛奈緒美)

### (1) 「地域密着型チーム医療実習」

平成 16 年度現代 GP に選定された「地域密着型チーム医療実習」では、実際に医学部・保健 医療学部混成チームを組んだ学生さんたちが、「この実習を通して、他学部の学生に抱いていた先 入観を取り払い、相手の仕事に対して素直に尊敬できるようになった」と声を揃えていた姿が印 象的でした。

また、実習後の学生の自己評価から、医療過疎が進む地域での滞在型実習によって、地域医療が遅れているという偏見が改まり、地域への就職に対する抵抗感も薄れたとの結果が得られたとのことでした。

取組目的が十分に達成されうる教育内容であり、何より実習の主体である学生にとって充実した内容であることが、ひしひしと伝わる今回の訪問でした。





(取組紹介はこちら) http://web.sapmed.ac.jp/gp/

### (2) 「知的財産関連教育の推進」

平成 17 年度現代 GP に選定されたこの取組では、関連講義の受講希望者が予想以上に多く、また、質問が多数飛び交う活気溢れた講義となり、学生からの潜在的ニーズが高い取組であると判明したとのことでした。知的財産管理室の室長である石埜助教授は、医学博士であり弁理士の

資格も持っており、この取組にとって、非常に心強い存在であると思われます。

このように目標となる教員が学内にいることは、学生にとって励みになり、今後この取組を実施するうえで望ましい環境であると感じました。GP 選定をきっかけに、この取組が長期にわたり継続され、札幌医科大学がパイオニアとして、日本における医療分野での知財教育を推し進めていくことを期待しています。



(取組紹介はこちら) <a href="http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html">http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html</a>

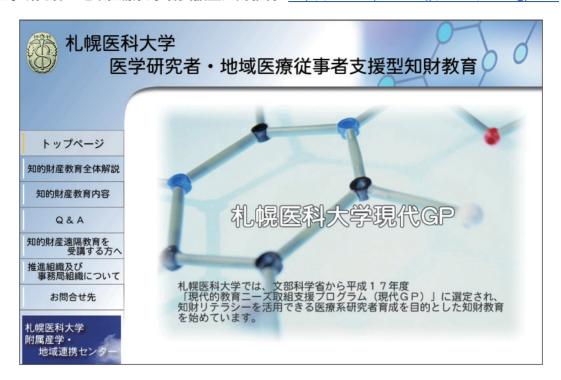
# その他掲載雑誌・論文 一覧表

| 掲載日・刊行日       | 内容          | 誌名                                                | 担当                                         | 題目・見出し                                        |
|---------------|-------------|---------------------------------------------------|--------------------------------------------|-----------------------------------------------|
| 2003/10/31    | 新聞記事        | 北海道新聞                                             | 石埜正穂                                       | 医学博士で道内初、弁理士合格                                |
| 2005/9/15     | 新聞記事        | 日本経済新聞                                            | 石埜正穂                                       | 医学研究生が特許取得                                    |
| 2005/12/23    | 新聞記事        | 北海道医療新聞                                           | 一瀬信敏                                       | 100課題、2次元で分類                                  |
| 2006          | 新聞記事        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 顔/札医大でスタートする知的財産教育担当教員 石埜正穂 氏                 |
| 2006/2/17     | 広告掲載        | 北海道医療新聞                                           | シンポジウム関連                                   | シンポジウム開催のお知らせ 医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育の確立を目指して    |
| 2006/2/22     | 紹介記事        | 蛋白質 核酸 酵素                                         | 石埜正穂                                       | Book Review-「理工系のための実践・特許法」                   |
| 2006/2/24     | 新聞記事        | 北海道医療新聞                                           | シンポジウム関連                                   | 専門家の育成不可欠 知的財産で井村氏強調                          |
| 2006/6/9      | 新聞連載        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 医療従事者と特許(1)「医療従事者と知的財産」                       |
| 2006/6/23     | 新聞連載        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 医療従事者と特許(2)「医療技術の普及推進」                        |
| 2006/6/23     | 広告掲載        | 北海道医療新聞                                           | シンポジウム関連                                   | 現代GPシンポジウム〜医療・医学研究、技術移転と知財教育のあり方を考える          |
| 2006/6/30     | 新聞連載        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 医療従事者と特許(3)「知的財産制度」                           |
| 2006/7/7      | 新聞連載        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 医療従事者と特許(4)「特許取得できる発明」                        |
| 2006/7/14     | 新聞連載        | 北海道医療新聞                                           | 石埜正穂                                       | 医療従事者と特許(5)「「有用性」と大学の役割」                      |
| 2006/12/2     | メールマガジン記事   | 文部科学省メールマガジン 大学改革GPナ<br>ビ-Good Practice-(第12号)    | GP関連                                       | GP選定取組の実施状況レポート                               |
| 2007/6        | 記事          | 産学官連携コーディネーターの成功・失敗事<br>例に学ぶ〜産学官連携の新たな展開に向<br>けて〜 | 一瀬信敏                                       | 医・獣医学術交流による共同研究                               |
| 2007/12/10 論文 | パテント Vol.60 | 石埜正穂                                              | 新しい医療技術の普及と知的財産教育のあり方について一医療技術移転の<br>現場から一 |                                               |
|               |             | 一瀬信敏                                              |                                            |                                               |
| 2008/1/19     | 新聞記事        | 室蘭民報                                              | 一瀬信敏                                       | 知的財産が切り札                                      |
| 2008/1/22     | 論文          | 蛋白質 核酸 酵素                                         | 石埜正穂                                       | 研究のアウトブットの両輪としての論文と特許・・・論文化と特許化で分岐する研究の道筋     |
| 2008/1/22     | 論文          | 蛋白質 核酸 酵素                                         | 石埜正穂                                       | 研究のアウトブットの両輪としての論文と特許・・・特許に必要とされる実証<br>データの実際 |
| 2008/2/15     | 新聞記事        | 北海道医療新聞                                           | シンポジウム関連                                   | 知財活用し地域貢献                                     |
| 2008/2/22     | 広告掲載        | 北海道医療新聞                                           | シンポジウム関連                                   | 平成19年度知財GPシンポジウム 医学系知財を活用した地域貢献活動とは           |
| 2008/4/10     | 紹介記事        | パテント Vol.61                                       | 石埜正穂                                       | 大学に勤務する弁理士として                                 |
| 2009          | 論文          | 産学官連携ジャーナル                                        | 石埜正穂                                       | 大学におけるライフサイエンス研究と特許出願                         |
| 2009/2/10     | 紹介記事        | 文部科学時報 平成21年2月号                                   | 石埜正穂                                       | 医学研究者・地域医療従事者を支援する知財教育                        |

# 学会発表・講演等 一覧表

| 開催日                                                              | 内容                            | 開催名                                                               | 発表者           | 演題                                                                              |  |
|------------------------------------------------------------------|-------------------------------|-------------------------------------------------------------------|---------------|---------------------------------------------------------------------------------|--|
| 2006/2/21                                                        | 講演                            | 現代GPシンポジウム                                                        | 石埜正穂          | 札幌医科大学の知的財産教育の取組の紹介                                                             |  |
| 2006/5/10                                                        | 講演                            | 北海道中小企業家同友会5月例会(札幌)                                               | 石埜正穂          | 中小企業でも取り組める医療分野との産学連携とは(医療関係技術とその<br>実用化)                                       |  |
| 2006/6/10                                                        | 講演                            | 北海道東海大学 知的財産講座                                                    | 一瀬信敏          | 大学の知財                                                                           |  |
| 2006/6/17                                                        | 学会発表                          | 口士如盱眙心筑《同带朱珥亦祭主心/亩                                                |               | 研究課題の可視化による札幌医科大学の研究活動の網羅的分析とその応                                                |  |
| 2000, 0, 17                                                      | , 2,002                       | 京)                                                                | 五 生正穂<br>黒須成弘 | -用<br> <br>                                                                     |  |
| 2006/6/17                                                        | 学会発表                          | 日本知財学会第4回学術研究発表会(東<br>京)                                          | 石埜正穂<br>一瀬信敏  | - 医療研究者支援型の知的財産教育の試み                                                            |  |
| 2006/6/26                                                        | 講演                            | 平成18年度現代GPシンポジウム パネル<br>ディスカッション                                  | 石埜正穂          | 医療・医学研究・技術移転と知財教育のあり方を考える                                                       |  |
| 2006/7/29<br>~30                                                 | 学会発表                          | 第8回日本医学教育学会大会(奈良)                                                 | 石埜正穂          | 札幌医科大学における「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」                                                |  |
| 2006/12/6                                                        | 講演                            | 防衛医科大学                                                            | 一瀬信敏          | 札幌医科大学における知的財産管理と産学官連携について                                                      |  |
| 2006/12/10                                                       | 講演                            | 知的財産シンポジウム2006「知の創造拠点<br>に向けて」(東京)                                | 石埜正穂          | 大学における知的財産管理体制構築の取組                                                             |  |
| 2006/12/10                                                       | 講演                            | 知的財産シンポジウム2006「知の創造拠点<br>に向けて」(東京)                                | 石埜正穂          | 国際的な産学連携における今後の課題                                                               |  |
| 2006/12/28                                                       | 講演                            | 札幌医科大学 第一病理セミナー                                                   | 一瀬信敏          | The Practical significance of prior pubrication research for patent application |  |
| 2006/3/10<br>2006/9/2<br>2006/10/21<br>2006/11/11<br>2007/2/10   | 講演                            | 高度管理医療機器継続研修会(北海道薬<br>剤師会/札幌、函館、旭川)                               | 石埜正穂          | 医療機器の管理と不具合情報について                                                               |  |
| 2007/2/27                                                        | 学内カンファレンス                     | 札幌医科大学第三内科                                                        | 石埜正穂          | 臨床研究と特許                                                                         |  |
| 2007/5/24                                                        | 講演                            | 山梨大学 文部科学省産学官連携コーディ<br>ネーター 第17回バイオ・医学会議                          | 一瀬信敏          | AUTM 参加報告                                                                       |  |
| 2007/6/30                                                        | 学会発表                          | 日本知財学会第5回学術研究発表会(東京)                                              | 石埜正穂<br>一瀬信敏  | 大学の特許出願実務についての実態調査                                                              |  |
| 2007/6/30                                                        | 学会発表                          | 日本知財学会第5回学術研究発表会(東<br>京)                                          | 一瀬信敏          | 知財活用分野における大学間協定の運用に関する調査                                                        |  |
| 2007/10/17                                                       | 講演                            | 中部経済産業局主催 平成19年度大学知<br>財支援事業 岐阜薬科大学第2回知財セミ<br>ナー(岐阜)              | 石埜正穂          | 医薬系公立大学の独立法人化と知的財産管理                                                            |  |
| 2007/10/23                                                       | 講演                            | 文部科学省産学連携コーディネーター<br>第18回バイオ・医学CD会議(札幌)                           | 石埜正穂          | 札幌医大における医学研究者向け知的財産教育と知的財産管理体制について                                              |  |
| 2007/12/5                                                        | 講演                            | 秋田大学知的財産オープンセミナー                                                  | 石埜正穂          | 大学と知財のハーモニー・大学の医療技術の適切な活用に向けて一                                                  |  |
| 2007/7/16<br>2007/10/20<br>2007/11/17<br>2007/11/27<br>2008/3/16 | 講演                            | 高度管理医療機器継続研修会(北海道薬<br>剤師会/札幌、函館、苫小牧、旭川)                           | 石埜正穂          | 医療機器の品質管理について                                                                   |  |
| 2008/1/18                                                        | 講演                            | 市立室蘭看護専門学院                                                        | 一瀬信敏          | 知的財産の活用による社会貢献                                                                  |  |
| 2008/1/31                                                        | 講演                            | 広域関東圏知的財産本部・関東経済産業<br>局・特許庁主催、東京薬科大学共催 平成<br>19年度大学等研究者対象セミナー(東京) | 石埜正穂          | 研究開発 活かそう社会へ                                                                    |  |
| 2008/3/6                                                         | 講演                            | 平成19年度現代GPシンポジウム                                                  | 石埜正穂          | 札幌医科大学の地域貢献活動について                                                               |  |
| 0000 (5                                                          | <b>兴人&amp;</b> +              | 日土和肝労入營 (日光生77520年人/ナナ)                                           | 石埜正穂          | :つらが用品++・ポニートソル・ス 戸門数 45立立 ユー・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・                |  |
| 2008/6 学会                                                        | 学会発表                          | 日本知財学会第6回学術研究発表会(東京)                                              | 松任谷優子         | iPS細胞技術における国際的競争力と特許戦略                                                          |  |
| 2008/6                                                           | 学会発素                          | 日本知財学会第6回学術研究発表会(東京)                                              | 一瀬信敏          | 日本の大学の技術移転に効果的な知財ポリシーとは                                                         |  |
| 2000/0                                                           | (6) 学会発表 日本知財学会第6回学術研究発表会(東京) |                                                                   | 石埜正穂          | ロ・ナ・シンパテッショス Fis 15 +AI 〜 ルJ 木 ドッ・ホルド パソノ <sup>一</sup> Cld                      |  |
| 2008/9/5                                                         | 講演                            | UNITT2008 産学連携実務者ネットワーキン<br>グ                                     | 石埜正穂          | iPS細胞技術と特許                                                                      |  |
| 2008/8<br>2008/9<br>2008/9<br>2008/10<br>2008/11                 | 講演                            | 高度管理医療機器継続研修会(北海道薬<br>剤師会/札幌、岩見沢、北見、釧路、苫小<br>牧、旭川、帯広)             | 石埜正穂          | 医療機器とPMS(培養表皮とカプセル内視鏡を中心に)                                                      |  |
| 2008/12/3                                                        | 講演                            | 北海道機械工業会電気電子部会交流会                                                 | 一瀬信敏          | 医工連携の現状と課題についてー札幌医大の現場からー                                                       |  |
| 2009/1/19                                                        | 講演                            | 国際特許流通セミナー2009(東京)                                                | 石埜正穂          | 中小規模大学の知財マネージメントと知財本部組織の構築成功要因                                                  |  |
| 2009/3/10                                                        | 講演                            | 医療・創薬関連産業活性化セミナー(東京)                                              | 石埜正穂          | 医療・創薬関連開発と大学(札幌医大を例として)                                                         |  |

◆医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育 http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html



◆知的財産管理室 <a href="http://web.sapmed.ac.jp/chizai/">http://web.sapmed.ac.jp/chizai/</a>



◆知財教育 e-Learning http://web.sapmed.ac.jp/chizai/chizaigp/jukou.html





# 参考資料:ホームページ・メール等での啓発

# 医学研究科博士課程

■□札幌医科大学附属産学・地域連携センター知的財産管理室よりお知らせ□■

※本メールは、平成20年10月24日の知的財産教育コース講義を受講いただきまし た大学院生の方へ配信しております。

先日は、知的財産教育コース講義を受講いただき、ありがとうございました。受 講後アンケートをご提出いただいた大学院生の方に、「受講証明書」を発行し、 所属講座へ配りましたのでご査収ください。受講名簿は学務課大学院に提出して おりますので、受講証明書を学務課へ提出する必要はございません。 次回の出席もお願いいたします。

### 【お知らせ】

①次回の知的財産教育コース講義のご案内

日時: 11月4日(火) 18:00~19:30 講義題目: 「大学の特許の排他性と大学にとっての知的財産経営について」 場所:札幌医科大学 本部棟3階 北2講義室 (←注:前回と異なります)

②「知財教育 e-Learning」について

平成 20 年 9 月より、医学研究者や地域医療従事者に向けた「知財教育 e-Learning」を配信しております。

既に、大学院生の皆様へは、受講 ID とパスワードを発行いたしまして、所属講座 へ関係書類を配布しております。

この機会に、「知財教育 e-Learning」をご利用ください http://web.sapmed.ac.jp/chizai/chizaigp/jukou.html

皆様のご意見・ご感想をお待ちしております。

知的財産管理室では、衛生学講座准教授で弁理士資格を有する石埜正穂室長や知 財スタッフが皆様の発明相談を受け付けております

特許や知的財産教育に興味のある方は、知的財産管理室

(chizai@sapmed.ac.jp) までお知らせください。

「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」サイト http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html 「知的財産管理室」サイト

http://web.sapmed.ac.ip/chizai/index.html

発信元:札幌医科大学附属座学・地域連携センター 知的財産管理室 佐々木

■□--

北海道公立大学法人札幌医科大学 附属産学・地域連携センター シニア・スタッフ (知財) 佐々木 秦子

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目

TEL : 011-611-2111 (内線 2107) FAX : 011-611-2185

### 医学研究科博士課程 大学院生の皆様へ

■□札幌医科大学附属産学・地域連携センター知的財産管理室よりお知らせ□■

### 一年2号-

※本メールは、大学院生(博士課程)にご所属されている方へ配信しておりま

知的財産管理室では、文部科学省の選定を受け「医学研究者・地域医療従事者支 援型知財教育」を行っております。

事業の一環として、平成18年度から毎年、知的財産教育コース講義を行ってお

今年度より、知的財産教育コース講義は、大学院 医学研究科 (博士課程) にお ける履修科目:共通講義「医学研究セミナー」として開講しております。各講義 の受講1回ごとに0.2単位(通常の大学院セミナーの1コマ受講分)として認定 され、講義終了後、「受講証明書」を発行しております。

(単位認定のためには別添のアンケートへの回答が必要となります) 詳細・最新情報は、

http://web.sapmed.ac.jp/chizai/chizaigp/education03.html でご確認くださ

皆様の受講をお待ちしております。

<10月24日および11月4日の知的財産教育コース講義をご受講された方へ> 受講後アンケートをご提出いただいた大学院生の方に、「受講証明書」を発行 し、所属講座へ配りましたのでご査収ください。

受講名簿は学務課大学院に提出しておりますので、受講証明書を学務課へ提出す る必要はございません。

①次回の知的財産教育コース講義のご案内

### 次回の講義は、

日時:11月28日(火)18:00~19:30

講義題目:「研究成果有体物とMTA」 場所:札幌医科大学 基礎医学研究様 5階 会議室(←注:前回と異なりま

② 「知財教育 e-Learning」 について

平成20年9月より、医学研究者や地域医療従事者に向けた「知財教育 e-Learning」を配信しております。

既に、大学院生の皆様へは、受講 ID とパスワードを発行いたしまして、所属講座 へ関係書類を配布しております。

この機会に、「知財教育 e-Learning」をご利用ください http://web.sapmed.ac.jp/chizai/chizaigp/jukou.html 皆様のご意見・ご感想をお待ちしております

知的財産管理室では、衛生学講座准教授で弁理士資格を有する石埜正穂室長や知 財スタッフが皆様の発明相談を受け付けております 特許や知的財産教育に興味のある方は、知的財産管理室 (chizai@sapmed.ac.jp) までお知らせください。

「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」サイト http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html 「知的財産管理室」サイト

http://web.sapmed.ac.ip/chizai/index.html

・単位に関するお問合せ先:学務課主査(大学院) 内線2177 ・講義内容に関するお問合せ先:主査(知的財産) 内線2108

発信元:札幌医科大学附属産学・地域連携センター 知的財産管理室 佐々木 **=** -

北海道公立大学法人札幌医科大学 附属産学・地域連携センター シニア・スタッフ (知財) 佐々木 素子

〒060-8556 札幌市中央区南1条西17丁目 TEL : 011-611-2111 (内線 2107) FAX : 011-611-2185

# 参考資料:ホームページ・メール等での啓発

### 医学研究科博士舞蹈 大学院生の皆様へ

■□札幌医科大学附属産学・地域連携センター知的財産管理室よりお知らせ□■

### -第3号-

※本メールは、大学院生(博士課程)にご所属されている方へ配信しておりま

< 1 1月29日の知的財産教育コース講義をご受講された方へ> 受講後アンケートをご提出いただいた大学院生の方に、「受講証明書」を発行 し、所属講座へ配りましたのでご査収ください。

受講名簿は学務課大学院に提出しておりますので、受講証明書を学務課へ提出す る必要はございません。

### 【お知らせ】

①次回の知的財産教育コース講義のご案内

日時: 12月5日(金) 18:00~19:30 講義題目:「自家培養軟骨の製品化-科学と技術と法規制-」 場所:札幌医科大学 基礎医学研究棟 5階 会議室

### ②学内 GP フォーラム開催のご案内

(注:本フォーラムは、単位認定されませんが、大学院生の皆様のご意見等を伺えると幸いです。多数のご参加をお待ちしています) ※詳細は、http://web.sapmed.ac.jp/chizai/gpinfo11.html をご参照くださ

日時:12月3日(水)17:30~19:30 場所:札幌医科大学 臨床教育研究棟 1階 講堂

内容:本学における GP の取組(各 GP 1 0 分程度) ~これまでの取組概要と今後の 展望を踏まえて

パネルディスカッション etc...

札幌医科大学では、平成16年度以来、複数の文部科学省「国公私立大学を通じた 大学教育改革の支援」事業採択を受け、新しい教育に取り組んでおります。

太阪組「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」 もその1 事業となります が、今年度(平成20年度)で事業が終了いたします。

これらの取組は、北海道の医療に貢献する大学挙げての教育実践であります。 事業終了後も、それぞれの教育取組の特徴を生かして本学の教育プログラムに位 置づけ、今後も継続し、成果をあげていこうと考えています。

本フォーラムでは、関係教職員が、各教育取組内容を学内の皆様に報告いたしま

皆様からご意見等を伺えると幸いです。多数のご参加をお待ちしています

### 「知的財産管理室」サイト

http://web.sapmed.ac.jp/chizai/index.html

知的財産管理室では、衛生学講座准教授で弁理士資格を有する石埜正穂室長や知 財スタッフが皆様の発明相談を受け付けております 特許や知的財産教育に興味のある方は、知的財産管理室 (chizai@sapmed.ac.jp) までお知らせください。

「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育」サイト http://web.sapmed.ac.jp/chizai/indexgp.html 「知財教育 e-Learning」サイト

http://web.sapmed.ac.jp/chizai/chizaigp/jukou.html

知的財産管理室では、文部科学省の選定を受け「医学研究者・地域医療従事者支 援型知財教育」を行っております。

事業の一環として、平成18年度から毎年、知的財産教育コース講義を行ってお

今年度より、知的財産教育コース講義は、大学院 医学研究科 (博士課程) にお ける履修科目:共通講義「医学研究セミナー」として開講しております。各講義 の受講1回ごとに0.2単位(通常の大学院セミナーの1コマ受講分)として認定 され、講義終了後、「受講証明書」を発行しております。

皆様の受講をお待ちしております。

### ・平成 17 年度 現代 GP シンポジウム



「医学研究者・地域医療従事者支援型知財教育の確立を目指し て」

### 平成18年3月発行

平成 18 年度からの知財教育本格実施に向けて,知財教育の必要性について関係者の認識を新たにするため,平成 18 年 2 月 21日に開催されたシンポジウムの記録。

講師は,基調講演 井村裕夫氏(財団法人先端医療振興財団理事長),事例紹介 田中秀穂氏(京都大学大学院医学研究科准教授),石埜正穂氏(札幌医科大学知的財産管理室長・医学部助教授)。

### • 平成 18 年度 現代 GP シンポジウム



「医療・医学研究,技術移転と知財教育のあり方を考える」 平成19年3月発行

附属産学・地域連携センター発足を記念し、知財教育の取組と、知財を通じた医学研究成果の技術移転についての具体的方策を検討するため、平成 18 年 6 月 26 日に開催されたシンポジウムの記録。

司会は 濱田洋文氏(札幌医科大学附属産学・地域連携センター所長),講師は,基調講演 守屋敏道氏(特許庁特許技監),パネルディスカッション特別講演 宮田満氏(日経 BP 者 バイオセンター長),パネラー 橋本一憲氏(東京医科歯科大学知的財産本

部特任助教授・弁理士),杉本直樹氏(リクルート㈱テクノロジーマネジメント開発室シニアアソシエート),扇谷悟氏(産総研ゲノムファクトリー研究部門副研究部門長・北大客員教授),石埜正穂氏(札幌医科大学附属産学・地域連携センター副所長・知財部門長)。

### ・平成 19 年度 現代 GP シンポジウム



## 「医学系知財を活用した地域貢献活動とは」 平成20年3月発行

知財 GP 取組3年目に際し、知財教育を通じた研究者の育成と、研究成果の社会還元のあり方等に触れながら理解を深めていくため、平成20年3月6日に開催されたシンポジウムの記録。

司会は 濱田洋文氏(札幌医科大学附属産学・地域連携センター所長),講師は,基調講演 佐野太氏(山梨大学副学長・学長特別補佐・前文科省研究環境・産業連携課長),パネルディスカッション パネリスト 杉原伸宏氏(信州大学産学官連携推進本部・

医学部知的財産活用センター講師),松井純氏(三重大学産学官連携コーディネーター),辻泰弘氏(北海道経済部商工局産業振興課長),石埜正穂氏(札幌医科大学附属産学・地域連携センター副所長)。

### ・平成19年度 知財教育テキスト



## 「医学研究者向け 知的財産教育講義ガイダンス」 平成20年3月発行

知的財産制度等について初心者である医学生や医学研究者に対して,押さえておくべき知財知識や,研究成果を最大限に活用するために参考となる知財知識を収録。

執筆者は,平成 18 年度から平成 19 年度に開催された,知的財産教育講義の講師陣 13 名による。

講演テーマに関連する紹介文と、それに伴う設問の設定により、 学習者の問題意識の喚起を目指す。

※ 大学院生・地域医療従事者を対象とした学習コンテンツ「知財教育e-Learning」(平成20年~配信開始)および本学大学院・修士課程講義の補助教材としてもご利用いただけます。

### ・平成20年度 知財教育テキスト



# 「医学研究者向け 知的財産教育講義ガイダンス」 平成21年3月発行

平成19年度から平成20年度に開催された知的財産教育講義をま とめた第2集。

医学研究に必要な知財に関する基礎知識から,より専門的・実践的・体系的な知財知識を収録。

執筆者は、樋口修司氏(京都大学医学部附属病院医療開発管理部長),長井省三氏(日本製薬工業協会 知的財産部長・弁理士),田中秀穂氏(芝浦工業大学 工学マネジメント研究科教授),飯田香緒里氏(東京医科歯科大学知的財産本部特任助教),菅原桂

氏 (株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング 研究開発部 軟骨クラスター プロダクトマネージャー) の各氏。

※ 大学院生・地域医療従事者を対象とした学習コンテンツ「知財教育e-Learning」(平成20年~配信開始)および本学大学院・修士課程講義の補助教材としてもご利用いただけます。